

置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先に連絡ください。

受付 No.	289
研究課題名	胸腔鏡下肺区域切除術におけるインドシアニングリーンを用いた気管支同定
当院の研究責任者 (所属)	副院長 呼吸器外科科長 安孫子正美
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	なし
本研究の目的	<p>肺癌は悪性腫瘍のなかでも年々増加傾向にあり、その中でも CT 検診の普及等により小型の肺癌が指摘される頻度が増加しています。肺癌の治療では、病期が 1 期の患者さんでは手術治療が第一選択で、これまで肺葉切除術が標準手術とされてきました。しかし、腫瘍の大きさが 2cm 以下の場合には、切除範囲を小さくした区域切除術が肺葉切除に劣らない成績であったことが近年証明されました。そのため、今後、区域切除術を施行する頻度が増加することが想定されます。</p> <p>区域切除術の問題点は肺葉切除に比べてより細かい解剖学的理解を要する点です。そのため、肺葉切除に比べて術中に切離すべき構造の判断に迷う場合があり、特に気管支の同定が困難な場合があります。切離すべき気管支を同定する方法として最も確実な方法は気管支鏡で内腔を確認する方法ですが、実際にはそれも困難な場合もあるため、インドシアニンググリーンという色素を気管支内に着色する気管支同定法を立案しました。インドシアニンググリーンは肺区域切除術時に静脈内注射で他の目的（区域間切離時の指標のため）で使用されておりますので色素自体には副作用も少ないことが確認されていますが、今回用いる方法は、インドシアニンググリーンを気管支内へ着色するという方法で内腔から着色された気管支を術野から確認できる可能性があり、正確な区域切除術を行う上で意義があると考えております。</p>
調査データ該当期間	2023 年 8 月から 2026 年 12 月 31 日までの情報を調査対象とします。
研究の方法(使用する 試料等)	当院で本法を用いて肺手術が行われた患者さんの性別、年齢、検査データ、手術方法、手術成績、病理診断などの情報をデータとして登録させていただきます。

試料/情報の 他の研究機関への提 供及び提供方法	他の機関への試料・情報の提供はありません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
問い合わせ先	電話：0238-46-5000（病院代表番号） 担当者：呼吸器外科 加藤博久 ※病院代表番号から医局へ電話を転送します。 用件を伝えていただきますと、折り返し担当者より連絡いたします。
備考	本研究へ協力を望まれない患者さんまたはご家族さまは、2027年12月31日までに上記問い合わせ先までご連絡ください。 調査の対象となることに同意をされない場合でも不利益はありません。